



君の世界に芽生えるものは

くおんじゅく

久遠塾

vol. 43

久遠塾 ☎ 080-2182-1379 13:00~21:00
メールアドレス shiranuka.kuon@gmail.com

久遠塾スタッフ

いりかわ あきゆき
入川 暁之

日没後の冷え込みが少しずつ厳しくなり、久遠塾でもストーブの出番が増えてきました（東京から来た私は、まだ冬の入口なのに！と思ってしまう）。

新しい勉強スタイルの芽？

寒さを吹き飛ばす元気な声が午後
の図書室から聞こえ始めました。
え？元気な声が聞こえるのはなぜ
かって？その理由こそ、久遠塾の新

しいスタイルにつながるかもしれない『新芽』なのです。声の主は生徒教える生徒と教わる生徒の声です。グループ内で勉強のできる生徒が苦手な生徒に勉強を教える、そんな場面が見られるようになったのです。友達からの支援には「勉強しろ！」という大人の声に勝る影響力があるようです。ただし、楽しすぎて脱線してしまったり、ついついゲームをしちゃったり、講師の声かけが必要な場面がまだ多いのも事実です。久遠塾でも効果的な進め方を模索して行きたいと思えます。

白糠高校生、実社会で学ぶ！

白糠高校で行われている探究学習、その事前学習の様子は前号でお伝えしましたが、今回は、いよいよ本番白糠高校の生徒たち（以下、「生徒たち」という。）が神戸物産の白糠バイオマス発電所とユース白糠ソーラーパークを訪問しました。「白糠の天気が電気をつくることに関わっていることを初めて知った」「たくさんの方の作業の上に、私たちの生活が成り立っていることに気がついた」
自分たちが使うエネルギーがいっ



バイオマス発電の仕組みを学ぶ2年生。

たいどのようにしてつくられているのか、普段、何気なく電気やガスを使っている生徒たちにも、想像できるようにになってきたようです。

また、11月27日に社会福祉センターで行われた「明日の青少年を考える集い」では、白糠高校の生徒代表が『ふるさと学習』の成果を発表しました。町内のさまざまな場所を巡り、ときには体当たりで現場作業の厳しさを学んだこと、京都や大阪の文化に触れたことで白糠町の個性に気づいたこと、生徒たちは、自分たちの当たり前が別の地域では当たり前ではないということ、ふるさと学習を通して知りました。この経験を社会のさまざまな場面で思い出し、てほしいと思えます。

自分の世界を探る！

11月の間、久遠塾には、さまざまな目的で生徒が訪れました。定期考査の勉強や受験勉強の追い込み、悩み相談、ほかにも絵本を読んで過ごしたり、好きな小説を紹介しに来てくれたり。講師との将棋対決、なんという訪問もありました。勉強を教えることはもちろんですが、生徒たちが社会に出る前に『自信や安心をふくらませていく』その手伝いも久遠塾の重要なミッションになっていきそうです。



写真右／学習内容を改めて学びなおす「ベーシックスタディ」。いま勉強している内容をしっかりと理解することがベーシックスタディの狙いです。学習ソフト「スタディサプリ」を使って、パソコンやタブレットの画面上で問題を解いてい